

医療における情報(薬剤)の標準化を考える

杏林大学医学部付属病院薬剤部 若林進

薬効分類・薬価収載コードと

同効薬検索の問題点

はじめに

現在、国内で承認され

ている医療用医薬品には、日本標準商品分類番号が付番されている。図

1に本稿で取り上げる医薬品の日本標準商品分類番号を示すが、これらは添付文書(電子添文)で確認することができる。これらの番号は6桁の数字で示されており、医療用医薬品は共通で頭2桁は87である。それ以降の4桁の数字は「薬効分類番号」を示している。本稿では、この4桁の数字の「薬効分類」を中心に、活用法や問題点などについて述べていく。

薬価収載コードと個別医薬品コード

薬効分類番号が使われている代表例として、薬価基準収載医薬品コードが挙げられる(以下、

図1 日本標準商品分類番号の例

薬品名	一般名	日本標準商品分類番号
ベザトールSR錠200mg	ベザフィブラート	872183
リピディル錠53.3mg	フェノフィブラート	872183
パルモディア錠0.1mg	ペマフィブラート	872183
ベザフィブラート徐放錠200mg「武田テバ」	ベザフィブラート	872183
タケプロンOD錠15mg	ランソプラゾール	872329
ムコスタ錠100mg	レバミピド	872329
ドグマチール錠50mg	スルピリド	872329
ツムラ葛根湯エキス顆粒(医療用)		875200
ツムラ大建中湯エキス顆粒(医療用)		875200
プログラフアプセル1mg	タクロリムス水和物	873999
フオイパン錠100mg	カモスタットメシル酸塩	873999
ベネット錠75mg	リセドロン酸ナトリウム水和物	873999

薬価収載コード)。薬価収載コードは、全ての薬価収載医薬品に付番されている12桁のコード番号

の付番方法を示す。1~4桁目が前述の「薬効分類番号」である。ベザトールSR錠200mgの薬効分類番号は「2183」であり、この番号は「高脂血症用剤・クロフィブラート系薬剤」を示している。続く5~7桁目が投与経路および成分、8桁目が剤形、9桁目が8桁目までで分類した際の符番、10~11桁目が9桁目までで分類した際の符番、12桁目がチェックデジットを示す。

図2 薬価基準収載医薬品コードとは

薬品名：ベザトールSR錠200mg

2183005G1234	薬価基準収載医薬品コード
2183005G1234	個別医薬品コード (YJコード)

- 2183 (1~4桁目) : 薬効分類番号 (クロフィブラート系薬剤)
- 005 (5~7桁目) : 投与経路および成分
- G (8桁目) : 剤形
- 1 (9桁目) : 8桁目までで分類した際の符番
- 23 (10~11桁目) : 9桁目までで分類した際の符番
- 4 (12桁目) : チェックデジット (確認用)

図3 薬価収載コードと個別医薬品コードが違う医薬品の例

薬品名：ベザフィブラート徐放錠200mg「武田テバ」

2183005G1013	薬価収載コード
2183005G1331	個別医薬品コード (YJコード)

薬品名：ベザフィブラートSR錠200mg「サワイ」

2183005G1013	薬価収載コード
2183005G1285	個別医薬品コード (YJコード)

コードは同じ番号になる。

ベザトールSR錠200mgの薬価収載コードは2183005G1234であるが、ベザトールSR錠100mgの薬価収載コードは2183005G1000である。この

の二つは200mg錠と100mg錠、つまり規格違いの医薬品であるが、それぞれのコードを比べてみると、頭から8桁目までが「2183005G」と同じである。図2でコードの9桁目は「8

符番」と示したが、「2183005G」というコードの医薬品の1番目と2番目というように解釈になる。つまり頭から8桁が同じコードならば、同じ成分の医薬品ということになる。

図3は、薬価収載コードと個別医薬品コードが違う医薬品の例である。ベザフィブラート徐放錠200mg「武田テバ」とベザフィブラートSR錠200mg「サワイ」の例を示すが、この二つの薬品は同じ成分の医薬品である。この二つの薬品は、薬価収載コードが「2183005G1013」であり、他にも薬価収載コードが「2183005G1013」の医薬品が存在する。この「2183005G1013」の医薬品には、ベザフィブラートSR錠200mg「日医工」、ベザフィブラート徐放錠200mg「JGC」、ベザフィブラート徐放錠200mg「NIG」、ベザフィブラート徐放錠200mg「NE」、ベザフィブラート徐放錠200mg「トワ」などがある。

電子カルテなどの医療情報システムでは、このような「医薬品が違うのにコードが全く同じ」では処理するために都合が悪い。そのため、薬価収載コードではなく個別医薬品コードが使用されている場合が多い。個別医薬品コードは統一名称収載医薬品であってもコードが異なるため、それぞれの医薬品を区別することができる。